

農福連携による地域活性化

社会福祉法人 光友会（神奈川県）

住所	〒252-0825 神奈川県藤沢市瀬郷 1008- 1
TEL	0466-48-1500
URL	https://www.lfa.jp
経営理念	障害者には、同世代の健常市民と同様の「当たり前」の生活を営む権利」すなわちあらゆる面での「完全参加と平等」の権利がある。これを保障するためには、すべての面での条件整備が必要である。
事業内容及び定員	<p>① 生活介護 湘南希望の郷：60名 湘南希望の郷ケアセンター：20名 発達支援センターリエール：20名 太陽の家藤の実学園：60名</p> <p>② 共同生活援助/日中サービス支援型 藤沢サンライズ：30名（5ユニット） 湘南あっとほーむ・ひだまり：定員19名/短期1名 グループホームいぶきの家：定員5名</p> <p>③ 居宅介護・重度訪問介護・同行援護・移動支援 希望の郷ヘルパーステーション</p> <p>④ 障害者相談支援事業 藤沢障がい者生活支援センターかわうそ 高次脳機能障がい者相談支援事業所チャレンジII 藤沢市湘南台いきいきサポートセンター</p> <p>⑤ 就労支援事業（就労移行、就労継続支援A型、B型） 神奈川ワークショップ：就労移行6名、A型10名、B型60名 ライフ湘南：就労移行6名、B型54名 寒川事業所：B型20名</p> <p>⑥ 児童発達支援事業 太陽の家しいの実学園：定員60名 キャロット</p>

	<p>⑦ 放課後等デイサービス事業 太陽の家ホットスペース：10名 太陽の家どんぐり：10名</p> <p>⑧ 障がい児・者一時預かり 障がい福祉センターひかり：5名</p> <p>⑨ いそご地域活動ホームいぶき（障害者地域活動ホーム） 生活介護：40名、デイ型10名、など</p> <p>⑩ 磯子区障害者後見的支援室（コネクトハート）</p> <p>⑪ 地域交流ホームかわうそ（地域交流ホーム）</p> <p style="text-align: right;">など</p>
<p>収入 （法人全体） 令和3年度決算</p>	<p>①社会福祉事業 1,935,911,536円</p>
	<p>②公益事業 70,447,433円</p>
	<p>③収益事業 65,414,063円</p>
<p>職員数 （法人全体）</p>	<p>383名（非常勤を含む）</p>

農福連携による地域活性化



2022年9月15日
社会福祉法人 光友会
業務執行理事 一杉好一

1

1. 光友会について

藤沢・横浜・寒川に事業展開

- 創設: 1977年5月
- 本部: 神奈川県藤沢市瀬郷
- 職員数: 370名(非常勤含む, 2022年4月1日現在)
- 事業部: 6事業部(19拠点)
- 利用者延べ人員: 1,500名

※ 就労福祉部/収益事業部の連携による農福連携を推進している。他の事業部も本取組を活用し、利用者(身体・知的・精神)サービスの充実につなげている。



2

2. なぜ、農福連携か！？

【我らの思い】 WIN-WINをめざして！

法人中期経営計画2025に就労福祉部及び収益事業部は「地域社会に対する基本姿勢」のテーマの一つとして農福連携を掲げました。その目的の一つとして、地域の困りごとである農業放棄地を活用しながら、そこから生み出される生産物を利用者サービス(工賃)の向上につなげることにあります。

就労分野で働く障害のある方の平均工賃は20,000円前後。そこで農福連携により農業放棄地を減らすために農地を活用することで得られた生産物を地域で販売し、少しでも工賃を向上させることを狙いとしている。一方、地域の農園からの業務委託契約で働く利用者は、作業スキルが向上し、工賃規程による工賃支給額の向上となっている。もちろん、これで満足しているわけではなく、障がいを持つ方々の自立が最終目標と考えている。

3. 光友会・農福連携の経歴書

① 法人がおよそ10年前に隣地の農業用地を取得し、利用者サービスの一環で農作業を始める。

※ (課題)これまで地域の大規模農家から作業依頼があったが、作業費用を支払わないなどの問題もあった。その運営会社は、ノウフク連携で表彰を受けていた。現在は、そうした問題が発生しないように今は、事前に契約書を交わして作業を受託することになっている。

② 2020年頃から、大規模農園からの受託作業。パッケージへのラベル貼り開始。

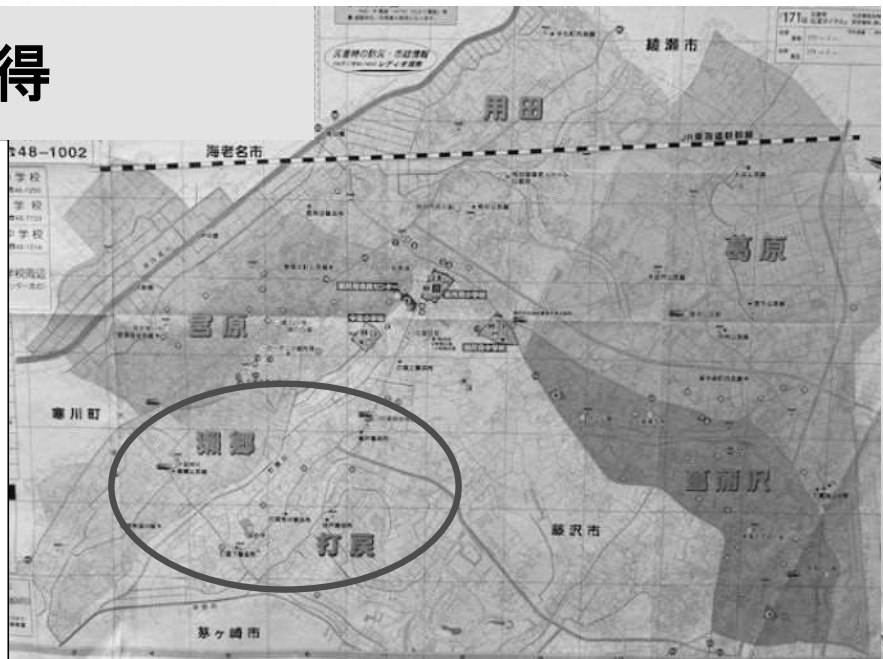
③ 2020年から、大規模農園に業務委託を開始。

④ 2021年から、藤沢市青果市場と連携し、市場内畑作業を受託。

⑤ 2022年から、農業放棄地などを賃貸借開始。

4. 農地の獲得

私たちの農福エリア(藤沢市北部: 瀬郷・打戻地区)多くの田畑があるが、農業従事者の高齢化による放棄地も増加している!(後継者不在?)



打戻・瀬郷地区農業用地の状況 (出典:農業委員会)

番号	地番	登記地積 (㎡)	貸売意向
1	打戻1124	604	貸
2	打戻1125	195	貸
4	打戻1126	694	貸
5	打戻1127	366	貸
6	打戻1245	-1	貸
7	打戻1606	1,012	貸
8	打戻1977	1,213	貸売
9	打戻2120	1,024	貸
10	打戻2574	-1	貸売
18	瀬郷254	834	貸
19	瀬郷508	935	貸売
20	瀬郷510	958	貸売
21	瀬郷692	1,008	貸売
22	瀬郷1010	1,196	貸
23	瀬郷1011	-1	458 貸
24	瀬郷1092	1,365	貸
25	瀬郷1659	1,061	売貸
26	瀬郷1677	1,378	貸売
27	瀬郷1809	1,371	貸売
28	瀬郷1812	1,137	貸売
29	瀬郷1884	1,264	貸
30	瀬郷1961	1,093	売貸
31	瀬郷1964	966	売貸
32	瀬郷2069	1,093	貸
33	瀬郷2072	1,097	貸

5. 手続きの壁(農地賃貸借手続き)

① 社会福祉法人が農地を借りるということ(条件)

・定款に農業を行うことが入っているか？(農業水産課・農業委員会)

⇒ 理事会、評議員会を経て、定款変更を行った。(神奈川県への申請)

② 借りた土地でブドウ圃場を行う場合(条件)

・専門の職員が配置されているか？(農業水産課・農業委員会)

⇒ 当法人の場合は、自家農園を使ってすでにブドウを育成していることから、借りた土地でもブドウを育てても良いと了解が得られた。

7

6. 確保した農地

実現した農地の
確保へ向けた農
業放棄地の活用
(黄色部分)



8

7. 農作業の取り組みの概要

耕作面積	自家農園: 約3300㎡(約3反)2012年から 借入農地: 約3100㎡ (約3反)2022年7月から
主要農機具	耕運機1台・管理機1台・草刈機1台
生産物	季節の野菜、米、ブドウ(ワイン用) 地元農家の生産物(トウモロコシ、柿、茗荷等)
主な販売先	無人販売、他事業所、バザー、自家給食等
栽培方法	無農薬

8. 就労福祉部の農業従事者

①神奈川ワークショップは自家農園作業・農業放棄地での田畑作業、大規模農家からの受託作業
②ライフ湘南は大規模農家からの受託作業
③寒川事業所は大規模農家からの受託作業
以上の内容でノウフク連携を行っている。

事業所	利用者		職員
	直接	間接	
神奈川ワークショップ	6名	10名	3名 (兼務)
ライフ湘南	5名	10名	3名 (兼務)
寒川事業所	5名	5名	3名 (兼務)
合計	16名	25名	9名

※表の利用者直接は、農業従事者。間接は、容器へのラベル貼りを行う、軽作業従事者。

9. 具体的な取り組み

打戻地区水利組合との連携(22年6月1日:用水路の整備作業に利用者・職員参加)



11

田植え(22年6月就労利用者の方々と一緒に田植えを行う)



12

発達障害を持つ利用者の田植えへの参加



【発達障害とは】

- 自閉症
- 注意欠如多動性障害(ADHD)
- 学習障害
- その他これに類する脳機能の障害



【自閉症の特徴的な症状】

- 質問された言葉をそのまま返す(オウム返し)
- こだわりが強く、いつも同じことをすることを好む
- 興味関心が限定されている
- 光や音に対する過敏さ…対応:イヤーマフ着用等

13

御所見病院との 連携・協力 (患者のリハビリに活用):現在進行形



14

ブドウ圃場現況 (22年6月)



17

11. 今後の進め方

No.1 (就労サービス)

- ① ワインづくりへ向け「ワイン特区」を目指す
- ② そのために、必要な生産量2000リットル確保へ向け、耕作地を拡大する
- ③ 利用する耕作地は、農業放棄地などを活用する(地域の放棄地を減少させていく)
- ④ できたワインを地域を中心に販売する
- ⑤ 販売して得た収益を利用者工賃として還元する(工賃向上)

No.2(他のサービス)

①福祉サービスの拡充

- ・就労支援だけでなく、日中活動系のサービスにも展開

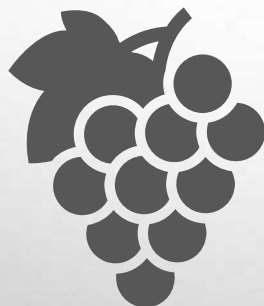
②周辺の小学校・中学校との連携

- ・ブドウ圃場での育成観察等
- ・田畑での農業体験等

③地域社会との連携

- ・ボランティアの活用・・・野菜作りやブドウの育成
- ・大学との連携・・・商品化等
- ・収穫物の販売・・・高齢者・ひとり親家庭への支援

ご清聴ありがとうございました



メイブの郷づくり推進²⁰